



2019.12.01 発行
かぐる杜の保育園
看護師: 杉田 美帆

子どもは風の子の季節の到来です！もいっこたちの元気に負けじと、風邪や感染症のウイルスたちも威力を増してくる季節です。規則正しい生活、バランスの良い食事で体力をしっかりとつけて、ウイルスに勝てるように、園でも家庭でも体調には特に気を配りましょう。

感染性胃腸炎

登園再開の目安は

- ・嘔気、嘔吐の症状がないこと
- ・普通便の確認ができ、下痢、腹痛の症状がないこと
- ・いつも通りの食事がとれること
- 不明、不安点は担任、又は看護師まで^^



胃腸炎の原因は正確には感染性胃腸炎といい、大きく分けてウイルス性と細菌性があります。これからの季節、流行してくるのがウイルス性の感染性胃腸炎なのですが、確定診断のための検査をしたところで特効薬がなく、また 検査結果が出るまでの間に軽快することが多いことからほとんどの病院で検査することなく、「お腹の風邪」「胃腸炎」等と診断されることが多いため、検査せずの診断の場合、一般的に「お腹の風邪」「胃腸炎」等イコール「感染性胃腸炎」ということとなります。嘔吐、下痢のある時は胃腸の働きが低下しているため、無理に食事を摂るとかえって症状が悪化してしまいます。脱水にならないよう、水分を少しずつ摂るようにしましょう。

知っておこう

おう吐物の処理

冬場に流行するウイルス性胃腸炎は、ノロウイルスやロタウイルスなどによって感染します。家庭でも二次感染予防のために、おう吐物の処理にご留意ください。

- ① 窓を開けて使い捨ての手袋とマスクを着け、使い捨ての布などでおう吐物を周辺からふき取る。
- ② 次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）を薄めた消毒液で、おう吐物のあった部分を再度ふく。汚れた物はすべてポリ袋に入れ、それらは、消毒液をかけてから密封して捨てる。
- ③ おう吐物の付いた服は、85℃以上の熱湯に1分間つけてから洗濯する。
- ④ さらに乾燥機にかけたり、アイロンをかけたりすると、熱に弱いノロウイルスは死滅しやすい。



インフルエンザ		かぜ
インフルエンザウイルス	原因	細菌、ウイルス
冬から春に多い	時期	一年を通して
全身症状	病気の始まり	鼻水、くしゃみ
39～40℃	熱	37～38℃くらい
大流行することもある	伝染	多くの人にうつらない
手足や腰に強く出る	関節痛	ほとんどない
肺炎、気管支炎、インフルエンザ脳症 など	合併症	安静を守ればひどくならない



インフルエンザは、発症し5日を過ぎて、かつ、熱が下がってから3日を過ぎるまでは、園はお休みします

年末年始の急病は？

年末年始はほとんどの病院が休診となります。お子さまの急な発熱やけがに備えて、事前にかかりつけの病院の他、近くの救急病院の診療時間と休診日は確認しておきましょう。また、帰省先の救急病院の情報も把握しておくことが大切です。

11月の感染症情報

園内での発生状況(11/26 付)

- ・突発性発疹 2名
- ・ヘルパンギーナ 2名

インフルエンザの流行時期になりました。今年もA型が主に流行の兆しです。急な発熱、呼吸器症状(鼻水、咳 など)に注意し、手洗いうがいで感染予防をしっかりと行いましょう。

